

各地区情勢報告（2018年10月25日）

地区報告者	報告概要
東京地区（山岸常任理事）	<p>（鉄筋・店売り）荷動きは7月、8月、9月、10月と月を追うごとに少しずつ良くなっている。来月がピークか。実際の現場で、基礎関係の加工を流通にやってほしいというものが多い。加工の仕事はやりきれないほどあり、加工付きの店売り販売が増えている。</p> <p>（鉄筋・直送）現状、市況は若干の強含みだが、今月は価格を据え置いた。8月は稼働日数、9月は天候不良のため需要のピークは10月から11月である。職人不足のため進捗が遅れている物件が出ている。台風の影響で9月の生コン出荷量は前年同月比10%以上減少したため、9月の明細投入量が減少したのではないか。</p> <p>（平鋼）9月販売数量は前月比ほぼ横這い。前年同月比5%減。9月は連休もあり、稼働日が少なかった。ひも付きの建機関係は下期減少傾向になっている。建築土木は8月、9月と動きが止まっていた。現在、店売りの建築向けは好調。特に加工業者が忙しくなっている。価格は徐々に上がっており、価格転嫁は浸透中である。9月からメーカーは値上げを唱えおり更なる値上げを検討している。平鋼メーカーは8月、店売り、ひも付き向けとも減産した。今後は建築需要に引っ張られ推移していくのではないか。</p> <p>（構造用丸鋼）需要は建築、自動車、産機、工作機械と引続き堅調に推移している。工作機械の一部で減産するという話があり、足元、堅調だが、先行きは不透明である。店売りは盛上りを欠く状況。歯抜けサイズ、品薄感はなくなっている。スクラップ価格の国内高、海外安の影響が出ている。中国の半製品の安さやプラスチックなどが混ざった国内スクラップの品質問題も出ている。現在は国内需要に支えられている状況である。</p> <p>（形鋼概況）形鋼部会の調査によると9月販売量は前月比4.8%増。H形鋼は1.4%増、一般形鋼は1.5%減となっている。販売自体は好調を維持している。9月売上数量は前年同月比10.3%減であったが、倉出出荷は増えている。9月は台風の影響で入荷が減少したため前年同月比で販売が落ちたと考えられる。</p> <p>（一般形鋼）中小形のアンクル、チャンネルの電炉メーカーはスクラップ、電極、副資材の関係で値上げ発表している。10月から流通でも一般形鋼の値上げアナウンスをしているが、下値がなかなか上がらない。3次店の在庫補充向けが低位安定のままである。建築関連中心に加工が忙しい。最近、生材よりも加工付きの商売に変わりつつある。物流倉庫の物件が遅れている。ALC関連の仕事も出てきている。土木物件も増えてきている。秋需は今後ピークを迎える。10月の市況は据え置いているが、形鋼メーカーは価格を上げてきているので、適正マージンをしっかりと取っていくことが課題である。</p> <p>（H形鋼）H形鋼の9月倉出販売は前月比、前年同月比ともに12%増。</p>

例年同様、9月は出荷が増え、加工も好調であった。各社各様だが、3週間から1ヶ月分の加工の仕事を抱えている。8月の建築着工は44万トン。1月～8月のトータル348万トン。2010年以来3番目にいい数字で高水準が続いている。大手ファブの仕事は山積み状態で需要期に入っている。在庫は土木サイズを中心に歯抜けが出ている。メーカーの入荷遅れにより、出荷減も考慮しなければならない。建築、土木は本格的な需要期を迎えているのでタイトな状況になっている。

(軽量形鋼) ほぼ横這いで推移している。メーカーの売腰姿勢は強い。価格はまったなしの状況。店売り販売の定尺品はほとんどなく、ほぼ加工が付いた商売になっている。商売の形態も少しずつ変化してきている。メーカーは価格について強気姿勢で商売がやりづらい環境である。需要期なので量は落ちていない。来月あたりから価格を徐々に上げていきたい。安値切上げに努力している。

(コラム) 9月出荷は前月比2割弱の減少。稼働日のズレであり、コラム自体の出荷は順調と見ている。今、手配しても来年になる。来年の価格は今よりも5千円アップくらいで商談している。供給のタイト感はぬぐえない。大径管は西から関東に持ってくるものが大半である。台風の影響でメーカーに在庫がある状況で、現在、価格よりも納期優先となっている。コラムは非常に売りやすい品種である。ただ、タイト感がぬぐえないためメーカーに供給してもらえないと困る。全体的に4ヶ月先まで発注は一杯になっている。

(薄板) 8月の薄板三品在庫は439万トン。非常に多い。台風の影響で物が入ってこないなどもある。全く粗利がとれない状況で、価格転嫁を進めていくしかない。現在、首都圏近郊に見えている物件だけでもショッピングセンター、ホテル、マンション、公共施設、学校、事務所、設備投資、1256万5千㎡と大型物件が116物件ある。全部の仕事がとれるわけではなく、大手企業が大半で、我々の取れる仕事はごく一部である。燃料蓄電池関係も忙しかったが、アメリカ輸出関係が厳しくなりその影響が出ている。店売りはまだ当用買い中心で、引合いはあるが商売が決まっていけない。ユーザー市況が上がっていない状況にもかかわらず、メーカーは強気姿勢で更なる値上げを考えている。

(厚板概況) 厚板部会の調査によると9月販売量は前月比増、在庫量は前月比減と良い方向に進んでいる。価格は強含み傾向で変化なし。価格転嫁の途中なので今後も強含みで推移していくのではないかと。現在、向け先により斑模様の状況で、潮目が良い方へ向かったもの、悪い方へ向かったものがある。産機は堅調。建機は好調だったが、下期に減産が予想されている。建築は足元好調、今後暫くこの状況が続くのではないかと。土木は堅調。耳付き母材、厚板定尺の販売も安定している。敷板はかなり好調。全体的にみると日割りでは変化なしの状況である。メーカーは紐付きばかりに目がいており、店売りに関してはロールのカット、価格値上げ等、強気姿

勢である。今後、建築需要中心の商いになるが、建機の減産次第では全体感を悪くする要因になるだろう。価格転嫁を進めてはいるが、これ以上の価格転嫁は天井感が見えており難しくなっている。人手不足、納期遅れにより工期が遅れるケースを懸念している。需要があっても我々特約店の仕事に繋がらないというケースが多く感じられる。ハイテンションボルト、油圧関係の不足で好調であった建築関連に遅れが出ている。

(中板コイル) 9月売上数量は前年同月比横ばいであった。販売価格が上がっているため売上金額では10%以上増加している。10月は前月の堅調さが続いており、稼働日数分は増加すると予想される。10~12月のトラック生産計画は、絶好調の生産計画をしており、このままの状態であれば12月までは安泰の状況である。建機は一部のメーカーで生産台数の下方修正があった。部品の調達に間に合わない理由だと聞いているが、現状価格ではこれ以上生産できないということで横ばいになっているのではないかと推測される。

9月に入り、店売り分野に多少引合いが増え10月に入ってもその状況が続いている。要因は台風の影響で船が出ない等の影響である。メーカーの店売りカットもあり、11月12月に仕入れができないと困ってしまう。各社各様だが、85%位の価格転嫁ができているのではないかと。現在、流通がその分を被っているが、積残し分をなんとか転嫁していきたい。

(厚板定尺) 8月は前年同月比数量、金額ともに10%以上増加している。9月は前年同月比数量横ばい、金額は昨年より価格が上がっており5%以上増加している。数量は前月比約5%増。7~9月は今年に入って好調であった。10月も期待している。厚板定尺の一部で歯抜けが出ている。メーカーは入荷が遅れており、価格転嫁せざるを得ない。当社では10月に入り、値上げさせて頂いた。在庫にタイト感があるため、値上げも割とスムーズに進んでいる状況である。輸送は地方へのスポット便の運賃が高くなっている。ユーザーには商品に運賃分は転嫁することはできない。輸送問題が深刻である。

(縞板) 9月売上は前月比、数量横ばい、金額増であった。地方の二次店、三次店向けが非常に悪い。再開発物件、プラント向け工場セットの床材、システム建築と需要は旺盛である。加工は外注に依頼しているが、仕事がパンパンの状態である。在庫は歯抜けがあり、お客様の要望に応えられない場合もある。8月に入り、需要家中心に値上げアナウンスしているがまだ100%転嫁できていない。非常に厳しい状況である。

(鋼管・高炉品) 9月は8月よりユーザーの休みが増えたため稼働日数減の関係で売上や在庫に影響が出たのではないかと。ひも付き中心の建産機、自動車は堅調に推移している。マイニング向けの大型ダンプの注文も入ってきている。建機は下期に下方修正が入っており、10%ダウンの見通しである。土木、プラント関係は好調である。店売りはパツとしない状況が続いている。今年の悪い時期に比べると好調とは言えないが悪化してもい

	<p>ない。在庫調整しても動かないものは動かないがアンバランスである。メーカー価格は強気姿勢で納期は遅れ遅れになっている。枠もカット要請が出ている。台風の影響で船やトラックが出ないため入荷が悪化している。先行き、景況が悪くなることはなく悲観している会社はゼロに近い。</p> <p>(鋼管・溶協品) 9月売上数量は前月比ほぼ横ばい、前年同月比は若干減少であった。9月店売り販売の状況は前年より稼働日数が減少しているため数量は悪かったが日割りでは前年より良かったのではないかと。9月は3連休が2週連続あり、その後から良くなってきたため全体感を盛り上げる雰囲気となった。この状況は10月に入っても続いているので、今後も期待できる。我々鉄鋼流通としては現状維持であれば御の字である企業が多い。ただ、鼻息が荒くなってきたメーカーとの温度差は埋まることはない。メーカーは次なる値上げを見据えており、実際値上げを開始しているメーカーもある。ユーザー関係では自動車の一部メーカーで不透明な企業もあるが、概ね好調をキープしている。建築、土木、建機、太陽光、物流パレット、ハウスメーカーは同じペースで需要が出ているので概ね堅調と言える。都内の建築物が増えているので、好調に推移している。来年の春、夏までがピークになると予想される。オリンピック関連の仕事も我々鉄鋼流通の仕事に出てきており、いろいろな施設が建設されるので期待できるのではないかと。加工は内容に問わず絶好調である。納期を延ばしたり、加工して持ってきてほしいという注文が多い。意にかなった内容で納入してほしいというユーザーが多い。価格転嫁は90%以上進んでいる。</p>
<p>大阪地区(森下常任理事)</p>	<p>(棒鋼) 異形棒鋼は9月稼働日が少ないうえに台風の影響で販売量は前月比マイナスであった。日当りの出荷量はまずまずであった。メーカーロールがタイトである。メーカーは再度値上げを唱えている。年内の物件は確保している。</p> <p>(平角鋼) 建産機向けは好調。構造用鋼は好調。市場でのタイト感は緩和されている。</p> <p>(H形鋼) 9月販売量は増加、一般形鋼は横這い。台風の影響もあったが日割りではよかった。流通の一次加工が忙しい。納期が延びている。コラム、ボルト、厚板、床材の手当てが厳しくなっている。工期に影響が出ている。在庫は台風の影響で減少した。</p> <p>販売単価は唱えを挙げている。安値は消えているので、この需要期に価格を上げていきたい。</p> <p>(薄板) 自動車は好調。特に輸出は好調である。コイルセンター、流通サイドは価格転嫁が進まない状況が続いている。これはひも付きと店売りの価格差の乖離が理由である。8月末の薄板三品在庫は439万トン。前月比大幅増となっている。足元の需要は堅調だが、米中貿易摩擦の関係が不透明なのも要因である。</p> <p>(厚板) 産機は盛上りに欠ける。建機、建材向けは堅調。流通もメーカー値上げ分の転嫁を進めている。シャーリング、溶断加工の単価も徐々に上</p>

	<p>がってきている。</p> <p>(鋼管) 輸出向け製造業、建機は好調。店売りは前年比横這い。造船は新規受注が入り少しずつ回復している。ディスプレイは9月繁忙期。店舗、住居は中小物件がある。建設は大型物件旺盛の中小物件も動き出している。土木関係の鋼管杭は好調。ヒューム管、推進管は不調。角パイプの価格転嫁はほとんど出来ている。高炉品の配管、シームレス鋼管はメーカー値上げの積み残し分があり、価格転嫁していかねばならない。市況は強含みである。建機、工作機械向けは堅調に推移していきだろう。建築は増加傾向である。台風の影響でトラックの手配などの原因で在庫は減少していくのではないか。薄板以外は荷動き堅調、単価も徐々に上がってきている。</p>
<p>愛知地区(早川常任理事)</p>	<p>自動車、建機は好調。厚板は溶断向けひも付き、現物在庫の反応が悪い。一般形鋼も建築向け以外では悪く価格転嫁出来ていない状況。</p> <p>鉄筋の出荷量は半減している。鉄筋メーカーの出荷の調整等があり、特約店の出荷が落ちている。鉄骨は好調。コラムは入荷待ちの状況。</p> <p>H形鋼のベースサイズは採算にあっていない価格もある。建築向けの出荷は好調である。在庫は余剰感がある。機械関係は良い所、悪い所と斑模様だが、全体的にはまずまずである。コイルセンターはユーザー向の好調を維持し、仲間取引は9月より10月の引合いの方が増えている。厚板。建築向け厚板は材料手配が困難で工期遅れになっている。建産機向けの厚板も好調を維持している。シャア業界の加工も忙しい状態。建築、建産機向け同様に人手不足で悩んでおり、なかなか仕事が進まない状況。</p>
<p>岡山地区(葛西理事)</p>	<p>岡山県は瀬戸内海に面しており、造船向けの出荷は前年並み。海洋構造物は増加している。しかし、岡山にあるM造船の海洋構造物の部署が香川県に移すので需要が減少するのではと懸念している。水島コンビナートでは石油化学製品などの統合が進んでおり、コンビナート向けの出荷量は減少している。鉄鋼製の大きなタンクがステンレス鋼に変わりつつある。3年に1回の更新があったものが、ステンレスに変わり約10年と長持ちするようになり、出荷量が減少している。農機具の需要は低位安定。HグレードMグレードファブはとても忙しい。その一次下請けも忙しい状況が続いており、切断機、開先機など設備投資をして対応している。仕事はあるが、人手不足でファブでは作ったものが山積みとなっている。出荷待ちの状況で図面があるが仕事は滞っている。7月の倉敷市真備町地区で台風、大雨の大きな災害があったが、復興需要はいまだない。鋼矢板の入手が困難という話はある。現在、売上数量は前年同月並みで推移しており、金額は単価が上がっている分、増加している。出荷量は横這いか微減。大手ファブは県や財団、大手業者と連携して仕事をしている。需給バランスを見ているだけでは、価格はいつまで経っても上げられない。都会からの仕入もあり、半分、目を瞑って強引に上げている。</p>